

# 【高等学校「情報I」情報デザイン、家庭科ホームプロジェクト】①

## 【宮城県宮城第一高等学校】

### 学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

- ・コンテンツ制作において、家庭科と情報科が連携を図りながら、各自の題材を作成させる。
- ・情報デザインの考えを取り入れ、他者へ分かりやすく伝えられるかどうかを評価する。

### 評価規準

- 知・技：情報デザインの考え方、コンテンツの制作の一連の過程について理解している。
- 思判表：場面に応じた情報デザインを考え、コンテンツの設計、制作、実行できる。
- 態：制作したコンテンツを自ら評価し、改善をしようとしている。

### 教科等横断的な視点での取組

#### ① 情報デザインの基礎知識の習得

#### ② コンテンツ制作 (プレゼンテーションソフトの活用)

#### ③ 家庭科との連携 (プレゼンテーションソフトの活用)

#### ④ 作品発表 (自己評価と振り返り)

『家庭基礎』の夏休み課題として、ホームプロジェクトに取り組ませている。ホームプロジェクトは、高校生の目線で自己の家庭生活を見つめ、問題点を見つけ、調査・研究を行うものであり、主体的に解決方法を考え、計画的に実践する問題解決的な学習である。

発表資料づくりのための「情報デザイン」は「情報I」で学習している。そのため、ホームプロジェクトの課題発表は「情報デザイン」を活用できているかを確認するためにも有効な学習である。

- ①情報科において、情報デザインの基礎知識について学ぶ。
- ②デザイン事例と一連の進め方、プレゼンテーションソフトを活用した情報デザイン、コンテンツ作成にあたり注意すべきことについて学ぶ。
- ③**家庭科ホームプロジェクトと連携**し、夏休みの課題として取り組む。
- ④評価基準に照らし、各クラスのベスト3をアンケート機能で提出する。自己評価と振り返りをする。**※家庭科の時間**

# 【高等学校「情報I」情報デザイン、家庭科ホームプロジェクト】②

## 【②家庭科ホームプロジェクトで提出された完成資料の表紙】



## 【④授業の様子】

◎自己評価をしてみよう！

A よくできた B まあできた C やや改善点あり D 改善すべき

1 ユニバーサルデザイン・カラーユニバーサルデザイン	ABC 評価
フォントの種類・大きさにより読みづらい文字はないか。 区別がつきにくい色づかいをしていないか。 対象者が読めない難しい文字を使っていないか。 障害のある人に配慮しているか。	
2 レイアウト	ABC 評価
構造化されているか。 写真・図表を効果的に使っているか。	
3 コンテンツ	ABC 評価
興味をひくキャッチコピーや写真が用いられているか。 文章はわかりにくいかわらないか。 伝えたい内容が正しく伝わるか。	

③家庭科ホームプロジェクトと連携し、夏休みの課題として取り組む。ホームプロジェクトとは、高校生の目線で自己の家庭生活を見つめ、問題点を見つけ、調査・研究を行うものであり、主体的に解決方法を考え、計画的に実践する問題解決的な学習のこと。

### 【評価の観点】

- ・情報デザインの考え方や方法に基づいて考えようと粘り強く取り組もうとしている。
- ・他教科との関連を理解し、一連の活動を振り返ることを通して、自らの学習を調整しようとしている。

④評価基準に照らし、各クラスのベスト3をアンケート機能で提出する。自己評価と振り返りをする。

夏休みを挟むことで振り返りや改善の時間を作り、コンテンツ制作に粘り強く取り組み、家庭科の内容も深められるような工夫をしている。

### ※家庭科の時間

### 【評価の観点】

- ・アプリケーションソフトウェアの操作の優劣を評価するのではなく、コンテンツ制作に情報デザインの考えを取り入れ、家庭科との連携を理解しながら、他者へ分かりやすく伝えられている。

※使用した環境等

プレゼンテーションソフトウェア  
Webフォームシステム

宮城県宮城第一高等学校での情報科と家庭科の教科等横断的な視点での取組について、紹介させていただいた。この他にも、数学科との連携等も行なっている。

本事例では、家庭科ホームプロジェクトの課題発表におけるスライド作成と情報デザインを結びつけ、作成した発表資料に対して情報デザインの視点に立った自己評価をさせている。それらの自己評価をそのまま評価するのではなく、教師の視点も取り入れ、生徒自身が自己の評価を適切に評価できているのかを判断している。

各教科におけるコンテンツ制作では、他者に分かりやすく伝えるという視点が重要である。情報科における「情報デザイン」は、教科等横断的な視点で多くの教科で取り組みやすい事例であると考えられる。